

地元の人たちと移住者、国内外から訪れる旅人たちが
ゲストハウスで出会い、交流してほしい。
仲間と共に「この場」で挑戦をゆるやかに続けていきたい。



徳永 かおり (とくなが かおり) さん

ゲストハウス「TESHIKAGA HOSTEL MISATO」コミュニティマネージャー

1973年茨城県生まれ。不動産関連、情報メディア会社を経て、シェアハウスの管理、民泊運営などを経験してきた。民泊運営は2015年から同居型スタイルで、自宅に旅人を迎え入れ延べ300人以上の旅人と交流。2011年からシェアハウスで暮らし始めたことをきっかけに、多拠点・場所・モノ・コトを共有する「シェアする暮らし」を実践提唱中。2021年から弟子屈で暮らしている。

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。27回目となる今回は、旅人だけではなく地元の方たちにも愛され、ずっと先の未来にもこの施設を残していく座組をトライ&エラーを繰り返しながら、コミュニティ運営を楽しんでいる徳永かおりさんです。

弟子屈に暮らすきっかけは？

コロナ禍になり、民泊のゲストの受け入れもままならなくなりました。私自身も働き方を変えようと、在宅フリーランスとして活動していたところ、2021年に

弟子屈町出身の経営者と出会いご縁をいただきました。東京にいる必要性がないと考えていた時、その方が構想している北海道の地方創生プロジェクトの話を知りました。いつしか一緒に仕事させてもらえることになりました。私の師匠でもあり世界、日本の多くを旅している方からの「弟子屈は素晴らしいわよ。仕事で半年か1年ぐらい行ってみない？」という言葉も私の背中を押してくれました。

シェア暮らしのプロとお聞きしましたが

いいえ、好きだけです（笑）。2011年「これからはシェアハウスの暮らしが面白そうだ！」と突然閃き、50人暮らせるコンセプト型のシェアハウスに入居しました。家族でもない、親戚でもない、友人でもない多

様な価値観を持つ他人達と、一つ屋根の下で暮らす…日常を満喫しました。ただそれは、楽しいことばかりではなく、細かな気遣いは必要で、不便なこともありました。日々、同居人たちとの雑談の中で自分の狭い価値観を打ち破る発見があり、物質の豊かさではないことを再認識しました。

3年目の弟子屈ライフはいかがですか？

弟子屈は自然がものすごく豊かで魅力的な場所です。何より四季がはっきりしていることが素晴らしいです。東京暮らしで感じていた季節感というのは、イルミネーション、ハロウィンなど百貨店などでの季節イベントでした。

弟子屈を含む道東の景色というのは、あまりの壮さにうっとりして、目的地を通り過ぎることもたまにあるほどです。この土地のエネルギーに吸い寄せられるように个性的で志ある20代の若者たちが移住者として集まってきていることも特筆すべきことですね。ここでなら、やる気がある人は何でも叶えられるような気さえしています。

仕事に対してのお考えは？

一人で静かに過ごしたいゲストにはプライベートな時間を確保し、ゲスト同士で話したい人、地元の人との接点を取りたい人には求めるコミュニケーションに寄り添いたいと考えています。加えてハウスの管理人として、ゲストの皆さんが気持ちよく滞在できるように、施設全体を清潔に保つていくためのルールをわかりやすく伝えることも私に課された大切なミッションだと思っています。これからは、ちょっとだけお節介なマネージャーとして、現地の人とゲストを繋ぐ役割に力を入れていきたいです。

ゲストハウスの特徴について教えてください

MISATOでは人と繋がり、自然と触れ合い、ゆったりと暮らすような滞在をお客様に提供しています。国内外の山登りを趣味にする方、冬場はバードウォッチする旅人に加え、ビジネスマン、工事関係者にも利用いただいています。更に、弟子屈町への移住を考えている人やワーケーション利用などの中長期滞在者もいらっしゃいます。2地域居住の拠点として季節を変えて再訪して下さる方も少なくありません。暮らすよ

うに滞在しながら、旅人や地元の方との交流も楽しめるゲストハウスなんですよ。

定期的なイベント開催の仕組みを作ったそうですね

2023年から弟子屈町地域おこし協力隊の川上^{りょうすけ}椋輔さん、高橋志学さんと業務提携し運営サポートを依頼しました。イベントの開催や宿泊プログラムの受け入れなどを通して多くの方がMISATOを訪れるきっかけを作ってくまっています。彼らは弟子屈町公式チャンネルを運営しているので、地元の人や弟子屈ファンへのアピール力が大きいです。その他にもSNS (Instagram、Facebook、X (Twitter)) を駆使した情報発信をしています。またチェックアウト10時～チェックインの15時までの時間でイベントを開いています。例えば、お料理教室、ものづくり体験、クラフトビールの会、フリーマーケット、親子参加型イベントなどです。昨年からバスを改造したサウナ「摩周バスサウナ」が、MISATOの敷地内にオープンし、多くのサウナファンも訪れています。「MISATOが新しくなったので見に来たよ」という地元の方も多くて感激しました。町民の方にゲストハウスに足を踏み入れていただけたことがありがたかったです。

今後に向けて一言お願いします

これからは、コミュニティは自分で選べる時代。家族、仕事の関係だけではなく、自分の価値観とあった人が集まっている、居心地の良いコミュニティをいくつか持っていることが、豊かな人生を過ごせる鍵になると思います。そういう意味で、ゲストハウスを核にした地元の人と旅人との接点になる場づくりに取り組んでいきたいと思っています。

(2024年1月取材)

インタビュー後記

弟子屈に惚れぬいていたわけでも、道東に魅了されていたわけでもなく、半年か1年試みに暮らしてみようという、(良い意味で)軽い気持ちで来られたかおりさん。当初、弟子屈の事業に関わった際にも、ゲストハウス運営の仕事があったわけではなく、旅行事業の仕事が中心で、リモートワークで仕事されていたそうです。2年目の春からは、弟子屈の現場でゲストハウスでのマネージャーが仕事の中心になったそう。今回のインタビューでも、「私って運がいいんです。優しくて才能あふれる国内外の人と出会えるゲストハウスのマネージャーは、天職な気がします」と、幸せそうに語ってくれました。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表